

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370521

研究課題名(和文) 宣命に使用される字音語についての再検討

研究課題名(英文) Re-examination of Sino-Japanese words used in SEMMYO

研究代表者

池田 幸恵 (IKEDA, Yukie)

長崎大学・多文化社会学部・准教授

研究者番号：10315228

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：天皇の和文詔勅である宣命では、現代語では音読される語も、和語で読まれることが多い。その背景には、従来の研究では、宣命の読みの根拠が、万葉集や平安時代の古辞書など、宣命以外のものに求められてきたことが挙げられる。本研究では、現在、整備中の宣命コーパスを用い、宣命の読みの根拠を宣命そのものに求めることにより、宣命の読みの再検討を行った。

研究成果の概要(英文)：In SEMMYO (Japanese imperial rescript), the words which are currently pronounced by Sino-Japanese reading, were often read by native Japanese reading. Because the previous studies have stated the theory that the way of reading words in SEMMYO based on vocabulary in Man'yoshu and old dictionaries during the Heian period. In this study the words in SEMMYO are re-examined using SEMMYO Corpus which is currently in progress. As a result some words in SEMMYO could be pronounced by Sino-Japanese reading.

研究分野：日本語史(文体論)

キーワード：宣命 コーパス 字音語 五国史

1. 研究開始当初の背景

(1) 宣命を訓読するという営みは、本居宣長以来、多くの研究者により試みられ、現在、続日本紀宣命の文章は、その大部分が和語によって訓読されるようになっている。しかし、宣命の起源は漢文詔勅にあり、初期の宣命の中には漢文部分をも含むことを考えると、現在提示されている宣命の読みは、和語で読むことを求めるあまり、本来字音語である語まで無理に訓で読んでいるのではないかという疑問も提示されている。

(2) 宣命の読みが現在でも確定されていない要因の一つは、従来の宣命研究の多くが続日本紀宣命だけを対象に行われ、『日本後紀』以降の「四国史」の宣命や平安時代の公卿日記に残された多くの宣命については、ほぼ等閑視されてきたことが挙げられる。これらの宣命の語彙や表記を再検討することにより、続日本紀宣命の読みを修正するだけでなく、『日本後紀』以降の国史に収められた宣命を含む「五国史」宣命全体の読みを確定し、宣命を奈良時代から平安時代にかけての日本語を知るための資料として有効活用できるようになると考えた。

(3) 研究代表者は、これまでに交付を受けた科学研究費補助金により、「四国史」の諸本を収集し、続日本紀宣命から三代実録宣命までを対象とした宣命文の全文検索システムである「宣命コーパス」を開発し、現在、日本歴史コーパスの一つとして組み込むために、コーパスの仕様変更を行っている。この「宣命コーパス」を活用することにより、これまで読みが確定できていない語彙についても、他の宣命における用例を参考に、読みを確定することが可能となる。

(4) また、研究代表者は、平安時代の宣命資料として、公卿日記に収められた宣命を対象とした研究も行っており、宣命を収録している平安時代から鎌倉時代の公卿日記の古写本のコピーについても、すでに多数を収集している。これらの宣命の語彙や表記も「五国史」宣命の読みを考える参考資料になると考えた。

2. 研究の目的

(1) 第一の目的は、「五国史」宣命や公卿日記に収められた宣命の読みを再検討することである。宣命の読みの根拠を他の資料群だけでなく、宣命そのものに求めることにより、「五国史」宣命の訓読を再考し、読みを確定させる。

(2) また宣命の読みを再検討することにより、奈良時代から平安時代初期の日本語語彙の中で、どの程度字音語が使用されていたの

かということも明らかにできると考えている。

(3) 上記の二つに加え、新たに確定した読みのデータを現在仕様変更中の「宣命コーパス」に組み込むことにより、宣命や当該コーパスを、奈良時代から平安時代初期の日本語を知るための資料として有効利用できるようにすることも目的の一つである。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、「五国史」宣命から字音読みの可能性のある漢字文字列を選びだし、従来の研究でどのように読まれてきたのかを一覧する。選択基準は、現在では音読されている語や、先行研究で音読される場合のある語である。

	続日本紀 宣命講	新日本古典 文学大系	北川和秀氏 校本
高年	としたか きひと	カウネン・ としたかき ひと	としたかき ひと
鰥寡	クワンク ワ	クワンカ	やもめ
孤独	コドク	コドク	ひとりひと
調		デウ	みつぎ
田租	たぢから	デンソ・た ぢから	たぢから

表 1. 先行研究において音読例のある語

(2) 次に、平安時代の和文や古辞書等どのように読まれてきたのかをデータベース化する。たとえば、「高年」の場合、多くの訓読文で「としたかきひと」という訓読がなされているものの、三巻本色葉字類抄では「高年 老耄分 / カウネム」(上カ・豊字・107ウ2)とあり、平安時代後期には「カウネン」と音読されていたことが分かる。

(3) 次に、「五国史」宣命における他の用例を「宣命コーパス」を用いて参照することにより、宣命の読みを確定していく。

- ・又高年人等養賜。
(続日本紀・宝亀1年10月1日条)
- ・又行宮乃辺尔近岐高年八十已上
(日本後紀・延暦23年10月10日条)
- ・天下給侍留高年尔給御物布。
(続日本後紀・天長10年3月6日条)
- ・又天下高年乃人止毛尔毛賜物布。
(日本三代実録・貞観2年11月16日条)

* 内は小書きの万葉仮名

「高年」は「五国史」宣命全体で 13 例が用いられている。仮名書き例はないものの、日本三代実録の用例は「高年の子ども」という例であり、このような用例からは、「高年」は「としたかき(ひと)」ではなく「カウネン」と音読されたことがわかる。このような作業を音読可能性のある漢字列に対し行うことにより、宣命の読みを確定していく。

4. 研究成果

(1) 初年度は、続日本紀を対象に、字音読み可能な単語の抽出、先行研究での読みの検討を行った。

続日本紀宣命に使用されている語のうち、現代語の感覚で字音読み可能な語は 322 語(異なり語数で 203 語)であり、それらの多くは「菩薩」や「法師」などの仏教用語や「靈龜」「天平」などの年号、「孝子」「順孫」などの宣命文末尾の大赦記事(漢文詔勅と共通する部分)に見られる語である。

これらの語のうち、先行研究において訓読しか示されていない語は、「嫡子」「興隆」「勘問」など 24 語であった。

また、先行研究において、訓読例と音読例があり、重点的に検討すべき語は、「謀反」「賞罰」「孤独」など 28 語であった。

(2) 平成 25 年度から 26 年度に掛けては、宣命コーパスの整備作業(以前作成した「宣命コーパス」を日本語歴史コーパスの一部として利用するために形式を揃える作業)を行った。概要は以下の通りである。

宣命コーパスの階層段階のイメージは、以下の図の通りであり、「五国史宣命」全体をまずは、「続日本紀」などのそれぞれの国史に分け、その中の宣命一つ一つを「詔」とする。

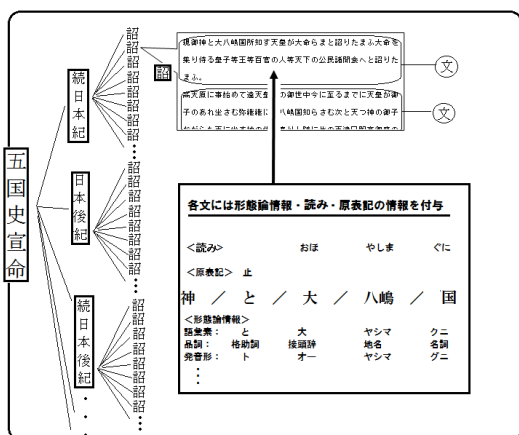


図 1. 宣命コーパスの階層段階イメージ

その宣命の内部を「文」に区切り、その「文」を「短単位」という言語単位を区切り、それぞれに、形態論情報や読み、原表記の情報を

付与する。

(3) その宣命コーパスを用い、続日本紀宣命の語彙について分析すると、以下のようなことが明らかとなった。

続日本紀宣命 62 詔全体の語彙数は(宣命末尾の漢文部分と未知語を除くと)18,323 語であり、品詞別に見ると、助詞がもっとも多く 4,882 語、次いで動詞が 4,743 語、名詞が 4,214 語となっている。それらの比率をグラフにすると次のようになる。

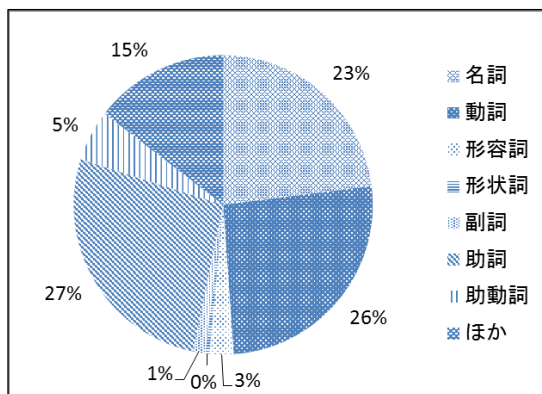


図 2. 続日本紀宣命の品詞構成比率

また、従来の研究では、続日本紀宣命の中でも淳仁・称徳期(第 1 期、宣命番号でいうと第 26 詔～第 47 詔)の時期の宣命には、仮名書きされる語の割合が高かったり、他の時期の宣命には見られない万葉仮名が使用されたりと、他の時期の宣命とは異なる部分のあることが指摘されてきた。宣命コーパスを用いて算出した品詞の構成比率から見ても、第 1 期では、副詞や形状詞の使用比率が高いという特徴があることが明らかになった。下の図 3. に示したように、続日本紀宣命全体で用いられる副詞のうち 56% が当該時期で使用されている(期別の語彙数は、第 1 期 7,670 語、第 2 期 7,085 語、第 3 期 3,571 語であり、第 1 期での副詞使用の期待値は約 40%)。

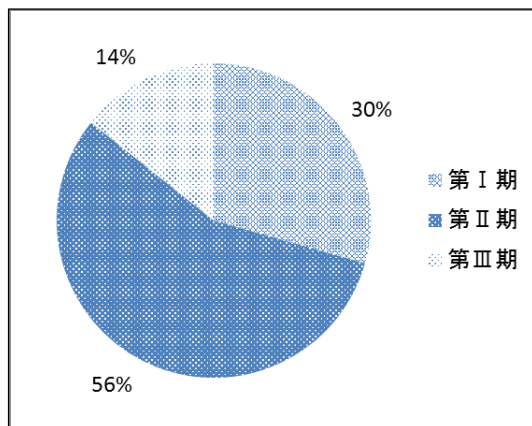


図 3. 副詞の期別比率

続日本紀宣命の品詞の構成比率でクラス

ター分析すると、次のようになり、甲詔である第51詔と第58詔、即位宣命である第1詔、3詔、14詔、24詔、61詔は近いクラスターに分類されており、宣命の内容と使用される語彙の品詞構成には関連があることが分かる。



図4. 品詞構成比率によるクラスター分析

(4) 平成26年度から平成27年度に掛けては、続日本紀宣命から三代実録宣命までのすべての宣命の語彙の中で、字音読みの可能性のある語について以下のような検討を行った。

まず、字音読みの可能性のある語(=現代では字音読みされる語)をリストアップしたところ、異なり語数で593語であった。

そのうち、平安時代の『源氏物語』や『枕草子』などの和文資料においても、音読みされている語は83例であった。それらの多くは、宣命の先行研究においても音読されることは多いが、「先帝(さきのみかど)」や「流罪(ながすつみ)」、「位記(くらゐのふみ)」など訓読みが提示されている語も24語に上る。

また、リストアップした593語のうち、『三卷本色葉字類抄』に字音読みが示されているのは148語であった。そのうち、宣命の先行研究において訓読みが提示されているのは65語に上る。以下に一部例示しておく。

用例	色葉字類抄での字音読み例	宣命の先行研究における読み
安穩	アンオン (下・39ウ2)	やすくおだひに
意況	イクキヤウ (上・13ウ5)	こころばへ
拷訊	カウシム (上・108ウ6)	うちたづぬ
加冠	カクワン (上・109オ5)	かがふりくはふる
勘問	カンモン (上・108ウ6)	かながえへとふ
起居	キキヨ (下・61ウ1)	たちゐ
興隆	コウリウ (下・12オ3)	おこしさかゆ
耕種	カウシウ (上・106ウ4)	なりはひ

将来	シャウライ (下・80ウ6)	ゆくさき
不慮	フリヨ (中・107オ3)	おもひのほか

表2. 古辞書の字音語が宣命で訓読される例

これらの語について、宣命コーパスを用いて用例の検討を行った。例えば「拷訊」の場合、以下のような例が存在する。

- ・伴清繩等 乎 拷訊 留尔
(三代実録・貞観8年9月22日条)
- ・従者等 乎 拷訊 須留尔
(三代実録・貞観8年9月25日条)

先行研究においては、上の例は「うちたづぬるに」、下の例は「かながへとほするに」と読まれている。これらは、それぞれ仮名書きされた「留(る)」と「須留(する)」に続くように工夫して訓読されているが、「ガウジン」と音読すると考えれば、「ガウジン(す)る」と統一した読みが提示できる。

このような、検討を加えた結果、「高年」や「拷訊」「耕種」「撰政」などいくつかの語が、訓読ではなく音読される可能性の高いことが明らかになった。

今後、同様の調査を、公卿日記に残された平安時代中期以降の宣命にまで範囲を広げて行うことにより、宣命の読みがより正確になると考えている。また、それらの読みを現在整備途中にある「宣命コーパス」に反映させることにより、宣命を日本語史資料の一つとして有効利用できるようになると考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

池田幸恵、須永哲矢、「五国史」宣命コーパスの設計とその利用、訓点語と訓点資料、査読有、第134輯、2015年3月、左1-19

〔学会発表〕(計 2 件)

池田幸恵、須永哲矢、「五国史」宣命コーパスの設計とその利用、第111回訓点語学会、平成26年11月2日、東京大学(東京都文京区)

池田幸恵・須永哲矢、「五国史」宣命のコーパス化、第4回コーパス日本語学ワークショップ、平成25年9月5日、国立国語研究所(東京都立川市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池田 幸恵 (IKEDA, Yukie)
長崎大学・多文化社会学部・准教授
研究者番号：10315228